



やくわ 八太 議員

水田農業の今後をどう考える

効果的な利用、集積は農地整備

質問 町の基幹産業と言える農業を取り巻く環境は、農業者にとっても、行政においても大きな転換期を迎えております。水田活用の直接支払交付金の交付対象水田の見直しや、将来の農地利用の姿を明確化する「地域計画」の策定期限の令和7年3月まで1年余りと



←動画はこちらから



基盤整備現場

なっている中で、今後の農地利用、集積についての指図や取り組みを行うのか、また促進を図るためにどのような対策や支援を講じていくのか。
現在は、畑作に取り組んでいるため、水田活用交付金の交付対象から外れ水田等の畑地化対策等、水田農業の振興策をどのように進めていくのか、町の考えを伺います。

町長 今後の農地利用、集積において最も効果的なのは農地整備であると考えます。
地域における将来の営農をふまえた整備を促進し、農家負担の軽減を図りながら農地の利用及び集積を図ってまいります。

また今後は、地域計画の策定作業に入りますが、誰がこの農地を利用していくのか、一筆ごとに定めた目標地図の作成に向けて集積や、集約化について対策等を検討したいと考えます。

「水田活用交付金」の5年水張りルールにより交付対象外となる水田等、開田地区の畑地化対策の進め方については現時点で町の取り組み方針はなく、積極的に進めているものはありませんが、対応については状況によって異なりますので、現地の確認も含め相談しながら対応したいと考えます。



工事を待つ大型重機

機能支払交付金」両事業の重複実施を推奨してまいります。
今後は、地域計画の目標地図作成や開田組合、集落協定の話し合いに必要に応じ担当者を出席させ、畑地化を含め農地の活用や水田農業の振興策について農業者や関係団体と議論を重ね、対応策を検討してまいります。

議会改革特別委員会報告

魅力あるまちの活性化に向けて

○議会と町商工業者の女性や若者との意見交換会を実施

参加者の抱えている諸課題についてや議会に対しての意見や要望について対面形式ではなく、多くの意見が聞けるようにワークショップ形式で開催し、活発で有意義な意見交換会になりました。



商工業の女性と議員との意見交換会



若者と議員との意見交換会

町民による模擬議会を7月27日(土)午後開催決定

○新たな視点の意見で模擬議員を募集します。

- ・自分の知識や経験を活かしてまちづくりに貢献したい。
- ・町政に自分の意見を反映させたい。
- ・議会や議員活動に興味がある。

問い合わせ 舟形町議会事務局 3210030

請願・陳情

3月定例会で審査した陳情は次のとおりです。

●中央公民館駐車場の拡充について **採択**
舟形地区町内会長 星川 基

●農産物直売所(産直まんさく)の存続についての陳情 **採択**
産直まんさくの会長 工藤 洋子

舟形町議会より能登半島地震に寄付



1月26日、舟形町議会議員全員より能登半島地震被災支援として集められた義援金10万円を、議長から町長に手渡しました。町に集められた募金とあわせて日本赤十字社に寄付されました。

令和6年3月定例会から本会議の審議状況をインターネット配信始めました

議案審議および一般質問はパソコンやスマートフォン等の情報端末から、視聴できます。

現在は録画配信をしておりますので、右のQRコードを読み取って視聴してください。(舟形町公式ホームページの議会ページからもアクセスできます。)

